プライマリ・ケア遺伝診療セミナー

（2025年度 東海がん専門医療人材養成プランセミナー）

プライマリ・ケアでのがんの遺伝に関する対話
～家族を含めたナラティブに着目して～

日時　2025年9月13日(土) 15:30-16:45開催
形式　オンライン（Zoom）
参加費　無料（オンライン視聴に係る通信費は参加者負担となります）

◀ 参加登録はこちらから

企画 鳴本敬一郎
（浜松医科大学医学部地域家庭医療学講座）

座長

宮崎景 先生（名古屋市立大学 大学院医学研究科 総合診療医学・総合内科学）

岩泉守哉 先生（浜松医科大学医学部附属病院 検査部／遺伝子診療部）

講師

尾藤誠司 先生（医療法人財団慈生会 野村病院総合診療部門）

『「出来事中心の医療」とは何か？』

若林英樹 先生（三重大学医学部 名張地域医療学講座）

『遺伝性腫瘍についての家族との対話～家族志向のプライマリ・ケアの視点から～』

日本プライマリ・ケア連合学会
■専門医・認定医更新のための単位　0.5単位
■Off-the-jobトレーニングの認定単位　0.5単位（領域：臨床）

プライマリ・ケアにおける遺伝性腫瘍（特に、遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）やリンチ症候群（LS）の適切な拾い上げは、米国予防医療専門委員会（USPSTF）や英国国立医療技術評価機構（NICE）で推奨されている。その支援ツールとして、癌の既往歴や家族歴をもとに遺伝カウンセリングや遺伝学的検査の適応を評価するシステム（JCRAS-PC）が本邦で開発された。しかし、判定結果を受けたプライマリ・ケア医は、遺伝性腫瘍が患者本人のみならず家族全体の健康問題になりうることや、「遺伝」という言葉が「どうすることもできない」といったネガティブな印象を与えることから患者に心理的負担を強いる可能性への倫理的ジレンマから対話の難しさを感じている。このため、単に遺伝性腫瘍や関連する介入（遺伝カウンセリングやリスク低減手術など）や検査に関するメリット、デメリットに関する知識を習得するだけでは、プライマリ・ケア医が抱える倫理的ジレンマへの十分な対処とはならない。では、プライマリ・ケア医はどのようにこの領域における対話を進めるべきなのだろうか。

MacDanielらの「メディカルファミリーセラピー」によれば、遺伝情報への個人の反応は家族の健康に関する信念や家族の病いへの経験など基づいて形成される。また、家族が遺伝疾患のリスクを扱うプロセスは情報に基づいた合理的な判断だけでは成り立たないと述べられている。さらに、ナラティブ・プラクティスを通じて、患者が家族や遺伝について物語ることで、患者の心理的負担に対するプライマリ・ケア医の認識が変化し、対話が円滑化する可能性がある。これらのことから、家族志向の視点やナラティブ・プラクティスの活用が、プライマリ・ケア医が抱える倫理的ジレンマの軽減と患者の理解促進に寄与するかもしれない。

本セミナーでは、遺伝性腫瘍スクリーニングにおいてどのように対話を繰り広げていけばよいのかについて、家族志向とナラティブに着目して探索する。

主催　日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア遺伝学ワーキンググループ
共催　浜松医科大学医学部附属病院遺伝子診療部
浜松医科大学医学部地域家庭医療学講座
東海がん専門医療人材養成プラン